

道母連だより

魅力ある道母連を目指して

理事長 畑 和子

4月29日に全道単体会長会議を開催、支援体制の増額や給付型奨学金、子ども居場所の調査などの行政説明を子ども未来推進局子育て支援課佐藤主幹よりいただきました。午後には、「つなごう人の輪、守ろう地域の輪」をテーマに意見交換を。子ども達が笑顔になる活動をと、帯広市つくし会の子ども達が体験することで引き出しを増やし、困ったときに乗り越えられる力をつける「わくわく体験室」、奨学金給付をしている会、



学習塾、子ども食堂に
取り組んでいる会、また子ども食堂に参加支

援している会員など、活発に会員増に努力し、休会に歯止めをかけている様子が伺えました。一層気を引き締めて楽しい道母連に心がなければと強く感じました。

母子家庭の自立と母の就労の場をと獲得し受託してきました、清掃事業の50年、道立病院院内保育所事業の40年の継続に、誠実に努力してきた職員に感謝が絶えません。また、先輩たちの果たされたご苦労を心の糧として守っていきたいと考えます。

7月29日に第47回北海道大会が帯広市で開催されました。参加者の笑顔があふれ、有意義な大会になりました。行政や関係団体のご指導・ご協力、地元の皆さまのご尽力に心から感謝申し上げます。

第89号

発行日/平成30(2018)年9月15日
発行/社会福祉法人 北海道母子福祉連合会
〒060-0081
札幌市中央区北1条東8丁目 北海道母子福祉センター内
電話 (011) 261-0447
●題字は山高しげり先生 ●印刷 傑アイワード

清掃事業委託 50年 道立病院院内保育所委託 40年 記念の夕べ



とき 平成30年4月29日
ところ 札幌グランドホテル



院内保育所、清掃部を代表して挨拶する中股さん(向かって左)、長谷川さん(向かって右)



院内保育所、清掃部の方々に畑理事長から一人ひとりにカーネーションを!



恒例の北国の春を皆で!



衆議院議員 船橋利実先生と



衆議院議員 和田義明先生と

北見病院院内保育所 中股美千子

社会保障や公的休暇が無い就労でしたが昭和53年8月に道母連が全道にある院内保育所の業務を引き受けて下さり、私達は安心して仕事に専念し研修会にも参加できる様になりました。産休明け保育で生後57日目の乳児保育をする事は毎日が緊張の日々でした。這った立った歩いたと一つひとつの成長過程に共に喜び嬉しさとの反面、責任の重大さが身に染みたのです。院内保育所を運営していく中で同僚にも恵まれ父母、病院の職員の皆様の理解、協力、支援を頂き心強く楽しく40年という長い間、居心地の良い環境で働き続けられた事に感謝致します。

第47回

福祉研修大会

7月29日(日)
ノースランド帯広

■メインテーマ■

「つなごう人の輪、守ろう地域の輪」

■テーマ■

—正規雇用で安定就労—
—母子と寡婦 共にはぐくむ子どもの未来—
—すべての子どもに安心と希望を!—



米沢則寿 帯広市長
歓迎のことば
永年勤続表彰の5人



(左から) 中股美千子・岩見かおり・伊藤紀代美・中里なおみ・穴山 栄美(敬称略)

やっと訪れた真夏の太陽の下、ホテル日航ノースランド帯広には550名の参加者が全道各地から参集し、盛大に開催されました。帯広市つくし会甲谷副会長の開会のことばに始まり、畑和子理事長の主催者あいさつ、米沢則寿帯広市長の歓迎のあいさつがありました。ご来賓の方々からは、お祝いのことばが続き、最後に知事さんと帯広市長さん、太谷道議会議長さんへこども代表から感謝の花束を贈り、開会式を閉じました。

また、永年勤続表彰があり、道立北見病院院内保育所保育士勤続40年の中股美千子さんをはじめ道立病院院内保育所保育士の5名の方々に、畑和子理事長から感謝状が贈られました。

プログラム

オープニングセレモニー
オカリナ演奏 富永真智子

開会のことば

母に幸あれ斉唱

黙とう

主催者あいさつ

歓迎のあいさつ 帯広市長 米沢 則寿

感謝状の贈呈

来賓祝辞

来賓紹介

祝電披露

花束贈呈 北海道知事さんと帯広市長さんへ
子どもの代表 高士龍之介くん 6歳
益子 結衣ちゃん 6歳

……小休憩・オリエンテーション……

講演

演題 北海道命名150年記念「松前詰合日記・生きていりゃこそ人生だ!」

講師 オホーツク太郎さん

……昼食・休憩……

アトラクション 帯広市郷土芸能「平原太鼓」

パネルディスカッション

決議・宣言

閉会の言葉

今日の日はさようなら斉唱

散会

市内見学(バス移動)



熱演の
オホーツク太郎さん

講演は、北のストーリーテラー、オホーツク太郎さんを講師にお迎えしました。第1部は新作講演「松前詰合日記」でした。北海道開発に生き抜いた人々の艱難辛苦の歴史の物語は、北海道命名150年記念にふさわしく、会場を魅了する語り口の講演でした。第2部は一転して、「生きていりゃこそ人」



歌に合わせて手拍子の参加者

生だ!」と題して歌の数々でした。しみじみと聴き入り、時には手拍子で参加したり、ステージと会場が一体になる時間でした。



平成30年度 北海道母子寡婦

とき 平成30年
ところ ホテル日航

パネルディスカッション

●「母子に関するテーマ」「私の自立」

帯広市つくし会 上田 麻衣

●「母子と寡婦 共にはぐくむ子ども

の未来」

岩見沢母子寡婦会 金沢さよ子

「子どものひとり親家庭学習支援事業土曜スクール『みのり』」

旭川市母子福祉連合会 外山 栄子

●子どもに関するテーマ

「すべての子どもたちに安心と希望を」

登別母子寡婦の会 亀松 浩子



■パネラー
(左から) 亀松浩子さん、
外山栄子さん、金沢さよ
子さん、上田麻衣さん

■コーディネーター
帯広大谷短期大学 社会福祉科准教授 阿部好恵さん

■助言者
帯広公共職業安定所 塚田奈津子統括職業指導官
道保健福祉部子ども未来推進局子育て支援課佐藤行広主幹、畑和子理事長

決議事項

平成30年度第47回北海道母子寡婦福祉研修大会において、ひとり親家庭及び寡婦の更なる福祉向上を図るため、次の事項を国及び地方公共団体に強く要望します。

- 平成25年3月に施行された「母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法」に基づき、雇用条件の改善のため、より積極的な就業支援策が講じられるよう要望します。
- ひとり親家庭の母が安心して子育てと仕事の両立ができるように、休日保育・夜間保育・延長保育・病後児保育等の保育サービスの充実、児童会館における放課後児童クラブの開館時間の延長と、公営住宅の優先入居など支援体制のより一層の充実を要望します。
- 養育費の支払い履行に向けて、義務を果たすための実効性のある法整備と養育費を支払った親の税の控除を要望します。
- 未来を担う子ども達が親の経済状況により、夢をあきらめることのないよう、教育の無償化を要望します。
- 家計の担い手であるひとり親家庭の母の通院と寡婦の通院・入院医療費の助成制度の確立を要望します。
- 寡婦の独居生活が可能な年金の支給及び公営住宅の優先入居を要望します。

平成30年7月29日

平成30年度第47回
北海道母子寡婦福祉研修大会参加者一同



オープニングを飾った
詩情豊かなオカリナ演奏
富永真智子さん



アトラクションの勇壮な帯広市郷土芸能
「平原太鼓」



宣言文を読む
帯広市つくし会の
櫻井弘美さん



JR 帯広駅にも
歓迎の横断幕が

十勝色満載の売店



手作りのワッペンで
おもてなし



決議を確認する
士幌町の
小枝千恵子さん

全道単位会会長会議

とき 平成30年4月29日(祝)
ところ 北海道母子福祉センター

平成30年度活動目標 理事・評議員各部より

全道単位会会長会議

定刻の10時30分に開会し、45單位会91名の出席報告があり、畑和子理事長は挨拶の中で、前日の理事・評議員・地区連会長会議において、平成29年度報告事項並びに平成30年度事業計画・予算案が承認された旨の説明をされ、清掃事業受託50年、道立病院院内保育受託40年を迎え、関係者の尽力に対する感謝に言葉がありました。
ご来賓の北海道保健福祉部子ども未来推進局子育て支援課森本秀樹課長からは、母子家庭等就業・自立支援事業、ひとり親家庭職業



畑和子理事長のあいさつ

30年度活動目標

理事 高橋ノリ子

四月に清掃事業が50年、院内保育所が40年を迎えてささやかなお祝いを催しました。こんなに長く事業を続けてきたという事は、それぞれの立場で携わってきた方々の、地道な努力が認められた事の証明だろうと思えました。

道母連は奨学金、ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業、自立支援センター事業、母子福祉センターの食堂、宿泊、貸室、空港ボレン、頒布事業、清掃事業、道立病院の院内保育所等々沢山の事業を女性だけで運営しています。それぞれの部所で担当の方がどうしたらよりよい経営が出来るか、お客さんに喜んでもらえるか本当に創意工夫をして仕事に励んでいます。室蘭の自立支援センターも新しい体制で動き始めています。多分、平成は今期で終りになると思います。新しい年号になる年に、余り重い荷物を残さないように私達理事もお互い情報交換をしながら、良い道筋ができるように物事を進めたいと思います。

各部の部長より

事業部 甲谷由美子

- ・ひとり親家庭の就労対策と清掃事業の拡大及び子育て支援
- ・母子福祉センター活用の周知と運営管理
- ・新千歳空港カフェテラスぼれん売上向上の一層の努力
- ・頒布事業の各社商品の周知と販売促進

研修部 半田るり子

会員減少に対し、単位会活動や地域の役割を再度見直し、来年度は少しでも、この組織に魅力を感じる母子家庭が入会することを目標にしたいと思います。

広報部 安達 史子

改革に必要なことは、現状を把握し原因を分析することです。その上で、中長期的な計画を立て優先順位を決め、いち早くスタートすることです。結果に繋がらない時も、「この方法は最良ではない。」と知り、次の案を考えることが出来ず。未来に向けて知恵を結集し成果につなげましょう。

平成30年度役員紹介

※は新任の方です。

理事・監事

理事長 畑 和子 (江別市)

理事 高橋ノリ子 (赤平市)

〃 井川 友子 (乙部町)

〃 池山 廣美 (帯広市)

〃 田中 和子 (函館市)

〃 藤本 恭子 (伊達市)

監事 松永 文美 (北広島市)

〃 小笠原千伊子 (岩見沢市)

評議員

(研修部)

部長 半田るり子 (七飯町)

〃 斎藤 睦 (平取町)

〃 次藤ユウ子 (共和町)

〃 中村 和子 (天塩町)

(事業部)

部長 甲谷由美子 (苫小牧市)

〃 梅本 弥生 (八雲町)

〃 湊 清美 (稚内市)

〃 三田 真美 (佐呂間町)

〃 末広 寿織 (釧路市) ※

(広報部)

部長 安達 史子 (当別町)

〃 田中 京子 (砂川市)

〃 外山 栄子 (旭川市)

〃 青木枝美子 (音更町) ※

顧問 渡部 タミ (旭川市)

訓練促進資金貸付事業運営への感謝の言葉があり、北海道のメールマガジンやホームページを利用して情報発信への協力依頼がありました。

引き続きの行政説明では、子ども未来推進局自立支援グループ佐藤行広主幹により、ひとり親家庭の現状と各種支援策が、資料に基づき詳細に説明されました。

午後の部は、「つなごう人の輪、守ろう地域の輪」をテーマに研修討議が行われました。新規会員獲得や魅力ある母子会を目指して、各理事から報告があり、参加の会員からも活発な意見が述べられました。



道こども未来推進局森本課長のご祝辞

「母に幸あれ」を斉唱



前日開催の役員による会議



議長の2人



佐藤行広主幹による行政説明



積極的に質問・意見交換



理事席からも活発な意見が

北海道善行賞を受賞して



平成30年度 北海道善行賞（優良母子家庭）表彰式
平成30年5月16日 於 北海道庁知事会議室

当別町母子募婦会

古谷 直美

この度は、優良母子家庭として善行賞という素晴らしい賞をいただきありがとうございます。

思い返せば、17年前に主人を亡くし途方に暮れました。長女は3歳、長男は2歳、次男は私のお腹の中で、毎日生活していくのが一杯で不安でした。「この子たちを大きく育てなきゃ。」とがむしゃらでした。そんな中、知人が私に

「頑張らなくてもいいんだよ。今居るだけで十分頑張っているんだから。肩の力を抜いてね。」と声をかけてくれました。私はこの一言でとても楽になりました。辛い事、大変な事、泣いた時、叱った時、笑った時など数えきれない程ありました。でも、子供の成長が何よりの励みになりました。3人の子どもは自分の進むべき道をしっかりと見つけて、各自歩んでいます。私の自慢の子ども達です。

今思えば、あつという間の17年でした。それは、私の周りで支えてくれた方々のお陰と本当に感謝したいです。特に両親と義母には心からありがとうございます。これからまだ続く人生ですが、子ども達の新たな成長を楽しみつつ、私自身の人生も楽しんでいき



必死に生きた17年間
たくましく育った3人の子ども達と

たいと思います。
「たった一度の人生だから。」

苫小牧風花の会

北澤 佳永

この度、苫小牧風花の会の推薦を頂きまして、五月十六日、北海道庁にて、阿部副知事より「北海道善行賞」の表彰状を頂きました。

突然の夫の死ではありましたが二人の娘を育てていくことで精一杯の日々をがむしゃらに過ごしてきたように思います。

このように頑張つてこられたのは、周りの方々の温かい励ましや支え、そして風花の会に入会させて頂いた事で、様々なサポートを受ける事が出来、同じ環境の中で頑張つておられる皆様の姿に勇気を頂いたからこそと、改めて感謝申し上げます。

現在、長女は東京で自立し、生



謝辞を述べる北澤さん

活をしております。苫小牧におります私と障害のある次女を心配してくれる優しい女性へと成長してくれました。次女は養護学校を卒業し、今は作業所の皆様に温かく見守られながら毎日楽しく通っております。

私はフェイスナルサロンを自営していますが、仕事を通して女性の自立支援が出来るよう、また、後に続く若い方々のお役に立てるよう、これからも努力してまいります。

ありがとうございました。

平成30年度共同募金助成金は4ブロック研修会、
広報誌発行に充当させていただきます。
ご報告し、お礼申し上げます。



4人を育ててくれた母と

たが、母が強く勧めてくれたので、一人で頑張ることにしました。いつの頃かわかりませんが、母が母子会を紹介され、奨学金の申し込みをして受けられることになったと話してくれました。部活動で必要なものや学用品の購入、

家族を支え、人の役に立つ人に

名寄市 大山 覧丸

奨学金を
生かして

翔く!

僕は今、名寄市の隣にある士別市の役所に就職して仕事をしています。3月の卒業と同時に親元を離れて一人暮らしを始めました。僕は4人弟妹の長男です。弟や妹、ずっと一人で頑張っている母親のことなどがとても気がかりでしたが、

これからは、少しでも人のお役に立てるよう家族や地域のために頑張る決意を強く持っています。本当にありがとうございます。

奨学金を受給した子ども達の卒業後の状況を道母連までお知らせください。自薦・他薦でお待ちしております。

資格を取得するための費用に充てることが出来て、とても助かりました。一番嬉しかったのは修学旅行の時、母が旅費を一生懸命工面してくれましたが、お小遣いがない不安に思っていました。母子会から連絡を受け、奨学金をいただいたときは本当に有難く思いました。その思いを胸に真面目に勉強に励み、将来を考えて就職しました。



名寄高校祭で弟妹と

清掃作業従事者研修会

平成30年度

6月2日(土) 母子福祉センター研修室において、職員、日勤、パートさんが参加して開催されました。受託50周年を迎え、基本に立ち返り、技術の向上を目指して新たなスタートとなる研修会になりました。



実践訓練



グループディスカッション



グループ代表の発表



熱心に研修する参加者

私が清掃部に入社した頃、現在より大勢の日勤者・パートの方が沢山いました。平成16年に業務内容が大幅に減りパートの方々が大量解雇になり、とても大変な時がありました。初めの内はこんな少ない人数で作業が終わるのか毎日が不安でしたが、少ない人数にもなれて作業も終るようになりました。

榊原先生、先輩達が色々苦勞しながら作り上げて来た清掃部です。今現在もいつもキレイな清掃を心がけて作業に取り組んでいます。

監督指導者の方が毎年色々な研修を考えて、全職員が参加して、更なる技術向上の為に勉強会をしています。清掃部がこれからも長く続けられる様に全職員ががんばります。(長谷川由美子)

お迎えしました

第32回

「苗穂地区子ども樽みこし」

6月9日11時、休憩に立ち寄られました。「未来を担う子どもたち」にお祝い金とお菓子を差し上げました。



道母連母子福祉振興基金にご芳志ありがとうございます

振興基金累計額(平成30・7・31現在)

一一一、五六七、四三七円

訂正とお詫び

第88号6頁に掲載の蜂谷愛子さんの短歌に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

新月の函館山に光あふれ

街の灯煌めき夜景に酔い居り

← 新月の函館山に人あふれ

街の灯煌めき夜景に酔い居り

平成30年度も道新振興基金さん、北洋銀行さん、みどりところの基金さんから助成をいただき、338名に奨学金が給付されました。

宿泊・貸室

ほねん

知人・ご友人をご紹介下さい!

北海道母子福祉センター

〒060-0031

札幌市中央区北1条東8丁目

TEL 011-251-2016

FAX 011-232-8095

国道12号線沿い南向きバス停前3階建、淡いピンクの建物です

お知らせ

平成30年度 全国母子寡婦福祉研修大会

開催日 平成30年10月27日～28日

会場 岡山プラザホテル(岡山市)

参加費 3,000円

おくやみ

ご逝去をいたみ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

行武初子さん 平成29年11月29日

元道母連理事で、カフェテラスほねん平賀職員のお母さま。

不破節子さん 平成30年1月30日
道母連第15代日会長

吉田慧子さん 平成30年3月20日
道母連第13代日会長

お二人とも短期間でしたが、会長としてご活躍されました。

平中忠信さん 平成30年5月29日

北海道の社会福祉史やハンセン病北海道の会を結成したり、道母連だよりのご指導をいただいたり、道母連と縁の深い方でした。

編集後記

旅番組で、内モンゴル自治区の広大なシラカバ林でトナカイを育てている狩猟民族エベンギ族を見た。多くの人々が都会に出て行きわずか30人で部族を守っている。林の中には、仲良く絡まっている「母と子の木」がある。問題が起きたとき、この木に話しかけると心が落ちつくという、宝の木が静かにたたずんでいた。

汽車の中からは万里の長城を背に、中秋の名月が輝いているのが見えた。旅人が「うさぎ、うさぎ何みてはねる」と歌うと周りから月餅が集まり、中国の月夜の唄が聞こえてきた。それに合わせて旅人が「うさぎ、うさぎ」を歌うと何とやさしく重なり合うことか。美しい国際交流となり、ほっこり温かい想いに包まれた。(外山)

9月6日未明、北海道胆振東部地震が発生しました。当号の編集中には各地域の状況が把握しきれしていません。早速、全国各地からお見舞いの電話などをいただき、誠に有難うございました。